

# インターロッキングブロック舗装 Technical Report － 維持・修繕 編 － (その2)

Vol.66

## 1. 修繕方法

### (1) IL ブロックおよび端部拘束物に起因する破損

ILブロック舗装の設計の原則を表1に示します。ILブロックの形状・寸法の例を図2および表2に示します。ILブロックのタイプや形状・寸法,曲げ強度,すべり抵抗値が不適切なことにより破損が生じている場合には、所定のILブロックで新たに敷設し直します。

表1 ILブロック舗装の設計の原則

記号	用途	交通量区分	ILブロック					敷砂 (mm)	敷設パターン	
			タイプ	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )	すべり抵抗 値 (BPN)	種類			
IL1	歩行者系道路	歩行者専用道路 自転車専用道路 (住宅の駐車場)注1	セグメンタル フラッグ 注2	60	3.0以上 注4	40以上	普通 透水性 保水性 路面温度 上昇抑制型	30	ヘリンボンンド45° ヘリンボンンド90° ストレッチャボン ド バスケット織り 大小ILブロックの組合せ その他	
IL2	乗用車乗入れ部	乗用車乗入れ部	セグメンタル	80		5.0以上 注5				60以上
		最大積載量6.5トン未満の 管理用車両が走行する道路								
IL3	歩道の車両乗入れ部	小型貨物自動車			セグメンタル	80	5.0以上 注5	60以上		20
	普通道路	N <sub>1</sub> N <sub>2</sub>								
	小型道路	S <sub>1</sub> S <sub>2</sub>								
	駐車場	小型貨物自動車								
	消防自動車乗入れ部	N <sub>1</sub>								
	歩道の車両乗入れ部	大型車両								
	普通道路	N <sub>3</sub>								
	小型道路	S <sub>3</sub>								
駐車場	大型車両									
IL4	普通道路	N <sub>4</sub> N <sub>5</sub>	セグメンタル (長方形・波 形型または IL4推奨スト レート型) 注3	80	5.0以上 注5	60以上	20	ヘリンボンンド45° ヘリンボンンド90°		
	小型道路	S <sub>4</sub>								

注1) 1日数回程度乗用車が駐・停車する非公共スペースの駐車場を示す。

注2) 住宅の駐車場の場合,フラッグタイプでは縦300mm×横300mmに限定する。

注3) IL4推奨ストレート型の形状寸法の詳細については、インターロッキングブロック舗装設計施工要領(平成29年版)を参照する。

注4) コア圧縮強度の場合,17.0(N/mm<sup>2</sup>)以上とする。

注5) コア圧縮強度の場合,32.0(N/mm<sup>2</sup>)以上とする。

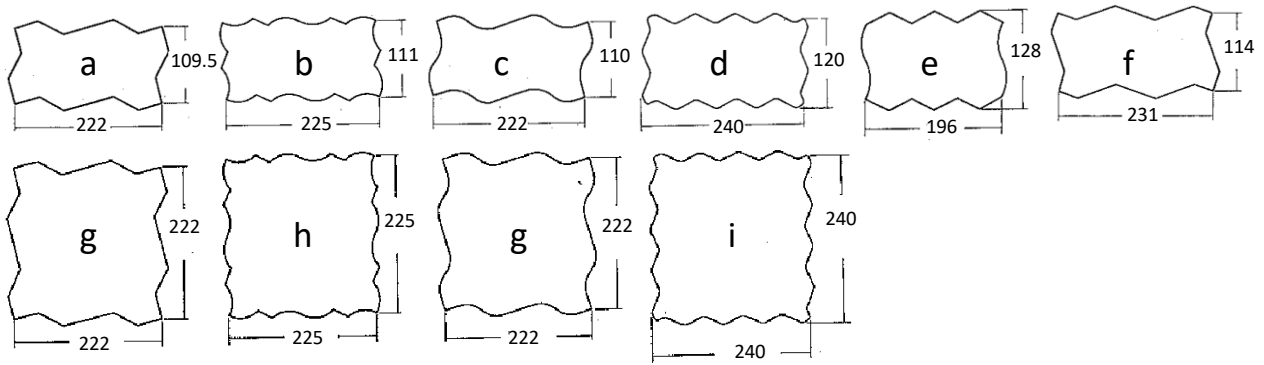


図2 波形型ILブロックの形状・寸法の例

表2 ILブロックの形状・寸法の例

タイプ	厚さ(mm)	形状		寸法(mm)
セグメンタル	60・80	長方形	ストレート型	100×200,150×200,150×250, 150×300,200×300
			波形型 (図2.2)	a 109.5×222, b 111×225, c 110×222 d 120×240, e 128×196, f 114×231
		正方形	ストレート型	100×100,150×150,200×200, 300×300×80厚
			波形型 (図2.2)	g 222×222, h 225×225, i 240×240
フラッグ	60・80	長方形	ストレート型	300×450,300×500
		正方形	ストレート型	300×300×60厚
		長方形	ストレート型	300×600,400×600
		正方形	ストレート型	400×400,450×450,500×500

## (2)ILブロックの敷設パターンに起因する破損

ILブロックの敷設パターンが用途に対して適切でないことに起因してILブロック舗装が破損している場合は、既設のILブロックを一旦撤去したのち、適切な敷設パターンで敷設し直します。敷設パターンは、**図3**および**表3**に示すとおりとします。既設のILブロックで破損していないものについては再利用することができます。新しいILブロックと再利用ILブロックとを併用して敷設する場合は、色調の違いによる色むらができるだけ生じないように両者をうまく混ぜ合わせて敷設し直すようにします。

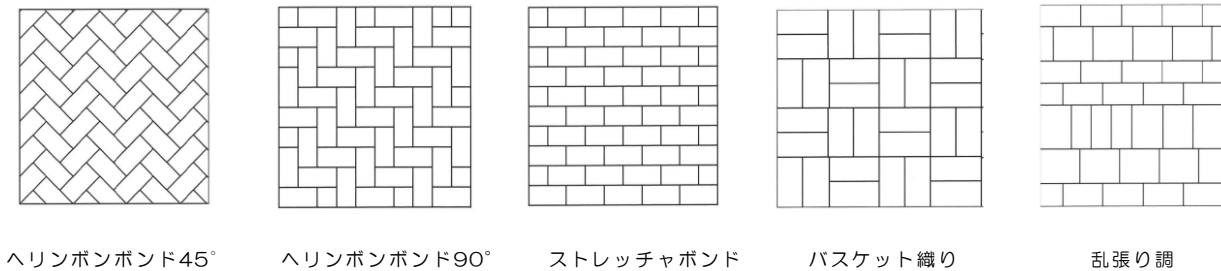


図3 ILブロックの敷設パターン

表3 ILブロックの敷設パターンの例

記号	用途	交通量区分	敷設パターン
IL1	歩行者系道路 (住宅の駐車場) 注	-	ヘリンボンボンド45° ヘリンボンボンド90° ストレッチャボンド バスケット織り 乱張り調 大小ILブロックの組合せ
IL2	乗用車乗入れ部	-	
IL3	歩道の車両乗入れ部	小型貨物自動車	
	普通道路 小型道路 駐車場 消防自動車乗入れ部	N <sub>1</sub> N <sub>2</sub> S <sub>1</sub> S <sub>2</sub> 小型貨物自動車 N <sub>1</sub>	
IL3	歩道の車両乗入れ部 普通道路 小型道路 駐車場	大型車両 N <sub>3</sub> S <sub>3</sub> 大型車両	ヘリンボンボンド45° ヘリンボンボンド90° ストレッチャボンド
IL4	普通道路 小型道路	N <sub>4</sub> N <sub>5</sub> S <sub>4</sub>	ヘリンボンボンド45° ヘリンボンボンド90°

注) 1日数回程度乗用車が駐・停車する非公共スペースの駐車場を示す。

### (3) ILブロック端部処理の不良に起因する破損

ILブロック端部処理の不良でマンホールや端部構造物のすり付け部等に段差が生じている場合には、その箇所のカットILブロックを撤去し、それらとの目地幅が3～5mm以内となるようにカットブロックを敷設し直します。その場合、カットブロックにはできるだけ大きな寸法のブロックを使用し、図4や図5のようにカットブロックの隣に小正方形のILブロックを用いて小さなカットブロックが入らないように敷設します。

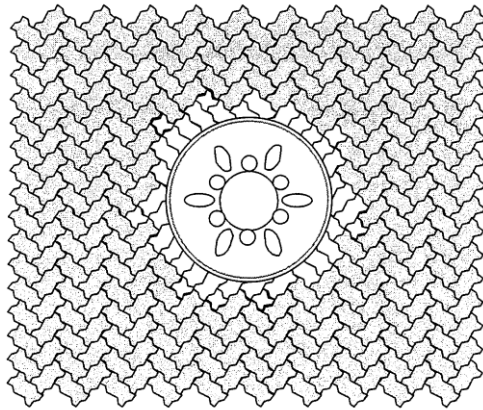


図4 マンホール周りのカットブロック割付例

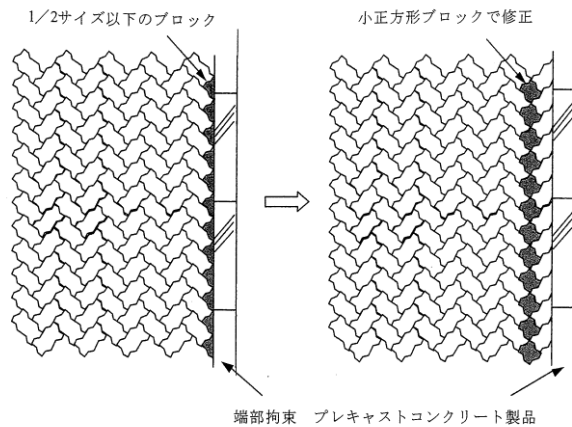


図5 端部構造物境界部でのカットブロックの割付例

### (4) ILブロック端部物に起因する破損

ILブロック舗装に端部拘束物が設置されていなかったり、端部拘束物が設置されていてもその寸法が小さすぎたりすることが原因でILブロックと他舗装とのすり付け部で段差や水平移動などの破損が生じている場合には、適用箇所や交通量区分に応じてJIS A 5371で規定された境界ブロック(図6,図7,図8,表4)から適切な寸法の製品を選定して使用します。図9,図10,図11にILブロック舗装とアスファルト舗装の境界に端部拘束物を施工した構造例を示します。

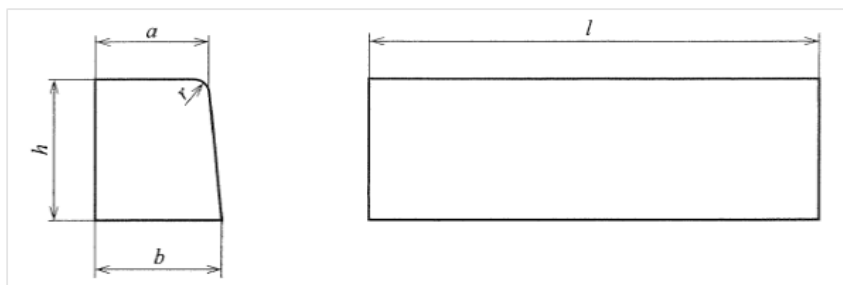


図6 片面歩車道境界ブロック

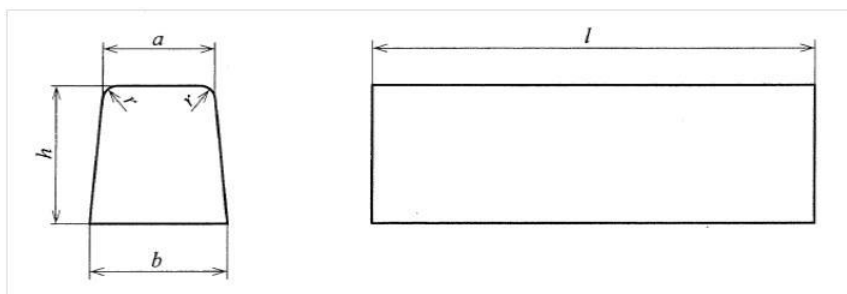


図7 両面歩車道境界ブロック

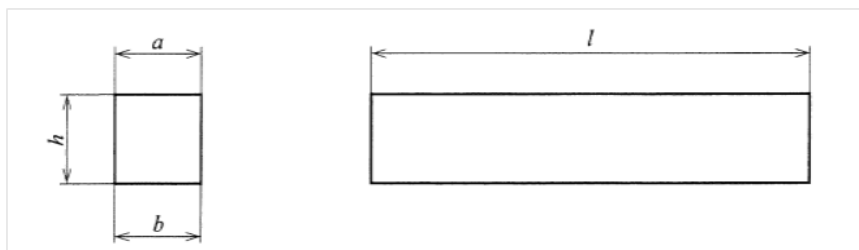


図8 地先境界ブロック

表4 端部拘束に使用する境界ブロックの寸法

注1) 歩車道境界ブロックの長さ(1)は,1000mmまたは2000mmとすることができる。

注2) 表中の数値は,JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 推奨仕様B-2 境界ブロック の寸法を示す。

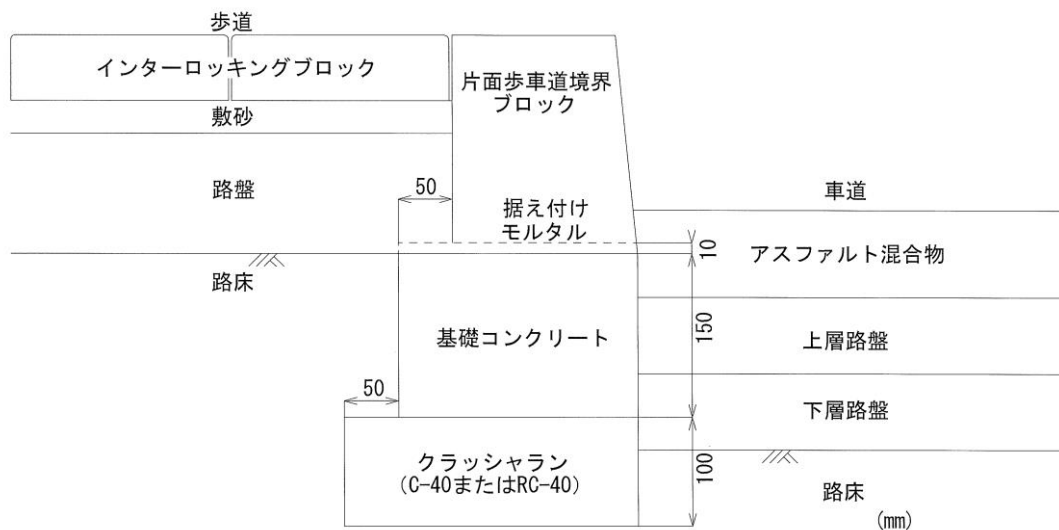


図9 片面歩車道境界ブロックによる端部拘束の構造例

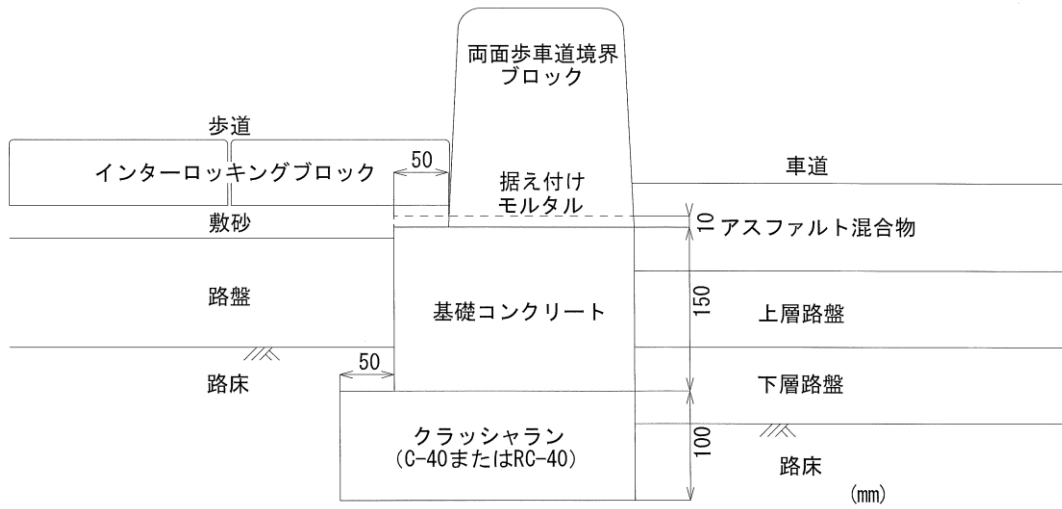


図10 両面歩車道境界ブロックによる端部拘束の構造例

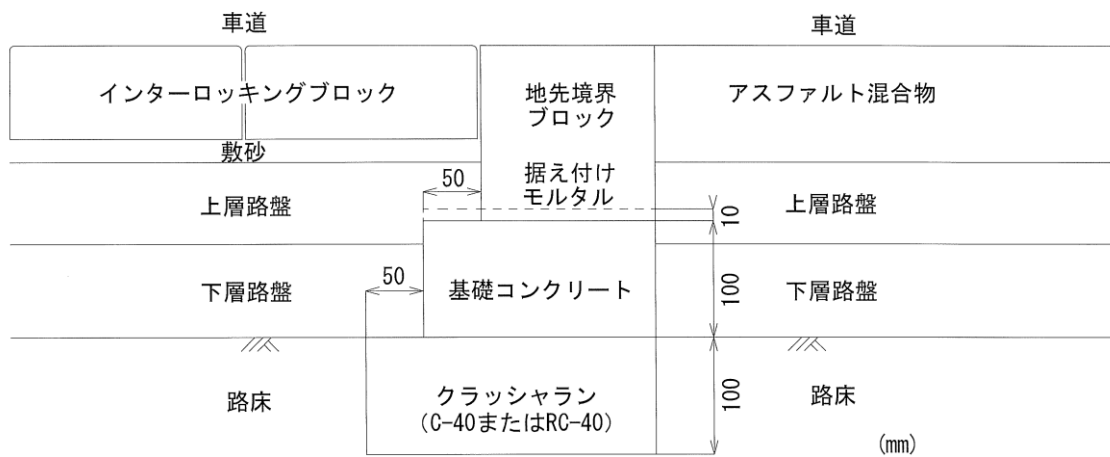


図11 地先境界ブロックによる端部拘束の構造例

以上